

村上地区 福祉活動計画 ヒアリング

日 時 平成 30 年 7 月 10 日（火） 10：00～10：40

対象者 団体名：みんなの居場所「おひさま」放課後デイサービス（代表者：渡部久美）

訪問者 佐藤富喜子、相馬智里

内 容

【課題：当事者への理解不足とあるがどのような場面で感じるか】

子ども達を連れて外出する時、地域の目を厳しく感じる。迷惑そうな態度をとられたり、挨拶を無視されたりすることもある。障害に対する地域の壁を感じる。

【外出時のトラブルの有無について】

今のところはない。重度の障害がある子には職員がマンツーマンでつくようにしている。地域になるべく迷惑をかけないように、怖がられないように気を付けている。

【スーパーやレストランの店員の対応は？】

とても友好的で助かっている。レストランでは、事前に利用することを伝えると、奥の座敷を貸し切りにしてくれるなど快く対応してくれる。

【課題：資金不足について】

財源については、利用料と自治体からの報酬であるが、最近の法改正により報酬がカットされた。人件費はサービスの質に直結する。よりよいサービスを提供したいが財源不足により、人材確保に結びつかない。一部の放課後デイサービスで悪い噂が立ち、国の審査や基準が一層厳しくなり、熱心に活動している事業所がその煽りを受けているように感じている。

【職員の資格について】

保育士、社会福祉士、教員、言語聴覚士、理学療法士等の資格所有者が職員として在籍している。また、経験年数3年以上の者など。規定では、子ども10人に対して児童指導員2人とあるが、それでは全然足りない。

これから夏休みが始まることもあり、一日子ども達をお預かりすることになるが、障害の重さに関わらずある程度の人数が必要となるが確保が大変。去年はボラ募集のために

新潟リハビリ大学にポスターを貼らせてもらったが集まらなかった。

⇒社協のボランティアセンターにてボランティアさんを募ることができる。後ほど募集内容の詳細について確認

【課題：情報が伝わらないとあるがどのような場面で感じるか】

学校側が事業所を把握していない。事業所を開所する前に市の校長会でPRし、チラシの配布をお願いしたが対応してもらえず、保護者まで情報が伝わっていかなかった。特別支援学校とはお互いに見学し合う等いい関係が築けている。また、村上総合病院からこちらを紹介してもらうこともある。今後、個別支援計画の普及により、行政、事業所、学校とともに連携していくことができるといいが…。

放課後デイサービスとは、単に障害のある子どもさんを預かるサービスを提供する場というのではなく、今後社会で生活していくためのコミュニケーションを養う場であるということをもっと地域、社会に普及していきたい。

【行政とのつながりの有無は？学校課や福祉課障害係等】

モニタリングは浦田の里と合同で行っている。また、新規の障害の認定調査の際には、行政職員と同席することもある。その他、報酬の請求など、何かあった時にはメールでやりとりしている。1年前には、福祉課職員3～4名が見学に来たこともあった。しかし、行政に課題や要望をあげるような場はない。

【課題解決のために：住民の意識向上】

他人の抱える課題を、自分の、地域の、そして社会の課題として捉えていくために、幼少期からの意識付けが必要のように感じる。障害のある人が“普通”に溶け込めて、暮らしていける社会を。優遇されなくてもいい。特別扱いするのではなく、健常者と何ら変わりなく生活していくことのできる社会の実現を。学校で障害の学習や講話などがあると、その時は周りの目も優しくなるが、普通学校での障害児・者に対する偏見やいじめは確かに存在している。自分の子どもも障害を持ちながらも普通高校に通っているが、他の生徒からいじめを受けている。親の自分でも迷い、悩んでいる。

身体障害など目に見える障害だけでなく、発達障害のように目に見えず、個人によって特性が異なるような障害があるということも理解が広まればいいと思う。

近年、障害者が社会になじめるようなソーシャルスキルトレーニングが普及されている。障害者側だけが頑張っても、受け入れ側の理解がないと社会に馴染めない。

【課題解決のために：行政の支援】

当方は株式会社なので、体育館利用も減免が適用されず、全額負担。減免が適用されるのは非営利団体でなければならないとのこと。地区公民館の利用についても、物品が壊さ

れたり等の懸念があるからか断られている。

⇒浦田の里や特別支援学校の体育館の借用ができないか問い合わせしてみる

【その他】

村上市内の放課後デイサービス事業所について

- ・みんなの居場所「おひさま」放課後デイサービス H29 年 4 月から開所
- ・障害児福祉サービス事業所「コンフォーテラス in 村上」 H29 年 12 月から開所
- ・(一社) natural 子ども発達支援所「はる」 H30 年 3 月から開所

上限管理や連絡協議会（3 カ月に 1 度開催）にて各事業所や他の施設等と情報共有している。その他また新たな放課後デイサービスが立ち上がるらしい。

《現状》

- ・障害に対する偏見がある。
- ・制度改正により、報酬が減額された。
- ・事業そのものの認知度の低さ。

《課題》

- ・障害に対する理解が不足している。
- ・資金不足により、人員確保が困難なのでサービスの質の低下が懸念される。
- ・学校や行政との連携が不十分。

《キーワード》

・「ノーマライゼーションの実現」

障害者が“普通”に暮らしていける社会を目指す。健常者と障害者とが共存し、助け合
いのできる社会づくり。

・「社会への理解普及」

地域住民の、障害者や事業所そのものへの理解を高めていく。

・「関係機関と風通しの良い関係づくり」

課題や要望を気軽に相談し合える関係を築き、共に連携を図っていく。